



日本カトリック海外宣教者を支援する会

巻頭言

トライアル

北村文代（成城教会信徒）

密かに脱藩クリスチャンと呼んでいる友人達の群れがある。若い頃受洗したか、ミッションスクールに学び、キリスト教の空気にどっぷり浸かって、過呼吸気味になって、その囲いの中から逃げ出した人たちである。「何がムカつくって、自分たちだけが真理を知っていて、他のものをすべて見下す上から目線の態度よ」海外宣教者というと、その言葉を思い出し、無意識に引いてしまっていた。しかし、「きずな」で語られる世界各地の邦人宣教者のレポートには赴いた現地で育んだ、のびやかな楽しい関係性が描かれている。1人の脱藩人に「きずな」を見せた。彼女の感想は「この宣教者にとって、キリストの福音を告げるためには、現地の人たちの無垢なる笑顔が絶対に必要なんだね」そのことがわかっているから、決して上から目線にはならず、ともにキリストの愛を成就させるためのパートナーシップを育てているのではないか。海外宣教者たちは一時帰国して1週間もするとホームシックにかかり、赴任地に帰りたい病になるという。もう1人、かの脱藩人も敬服した1人の宣教者を思い出す。ノルマンディ上陸の凱旋兵をブルターニュの街道でワインで出迎えた少年は長じてパリミッション会に

♥♥♥ もくじ ♥♥♥

巻頭言	1
第95回運営委員会議事録	2
宣教者からのお便り	3
ザ・メッセージ	11
ECHO	12
連載「海外宣教」	14
新しい支援者・事務局より	16



入り、パリの大学で同級生となった邦人シスターの影響もあり、日本への布教を希望する。以来 90 歳で帰国するまで、ずっと日本に留まり、弱い人、苦しんでいる人の友として、キリストの愛を体験された。

そこには神様のこと、イエス様を知っているのは自分だけ、という選民意識は微塵もない。神の愛、息吹が感じられない状況を見ると一自分の働きが足りないからとうなだれて胸を打ち、奇跡的な僥倖を体験すると、ただただ神の栄光を無言のうちに賛美する！どこまでも謙虚で自然体でなによりもみんなが笑っているのを見るのが好きだった。だから暇さえあれば、サムいジョークを連発して周囲を凍らせていた。こんな事があった。なかなか娘に子供ができないことを悩んで、司祭にお祈りを頼んだところ、すぐ懐妊し、その女性は喜んで「神父様のおかげで妊娠しました」と。一瞬間をおいて司祭は「困ったなあ！この年じゃ責任持てないよ」その悪戯っぽい笑顔、そしてその後に起こった爆笑の波！あの時確かにイエス様も私たちのバカ話の中にいた。たまたまその場に居合わせた脱藩クリスチャンもお腹を抱えて笑い、こういう集いなら、またきたいと呟いた。「きずな」のレポートには、そんな温かなキリストの息吹が溢れている。

ふと思う！異文化の人たちの中に空の手で入っていくときの唯一の武器は自分の内側に燃える神への愛ではないか。そこからこぼれ落ちる無邪気な笑顔！恐れ知らずの行動力！自分と他人との垣根がなくなった共感力！そして、強かな計算力と世の流れを察知する予見力！「それにしても」と脱藩人が呆れたように言う。「あの人たち、怖がらないよね。戦争だって、疫病だって、なんか平気な顔でやり過ごしている！栄養ドリンク飲まないのに、元気だし、占い師に頼らなくても、どうにか災禍を逃れてる。何より驚くのは顔の色ツヤがいいのよ。私、思わず聞いちゃった。シスター、どんなお手入れしてるの？って。そしたら、あら、なんにも。ただお水でさっと埃を流すだけって。私、おもわず言ってしまったの！ずる～いって」何がずるいんだか知らないけど、脱藩人はその後、海外宣教から一時帰国したシスターの佇まいに心動かされて、時々教会に足を運ぶようになった。

□■□ 第 95 回運営委員会議事録 □■□

日 時：2024 年 12 月 14 日（土） 12:00 ～

場 所：聖フランシスコ修道会 修道院 2 階教室

参 加：運営委員 9 名 欠席 4 名

議 事

I. 「きずな」169 号について

編集者から→今回も原稿の集まりが良く、多さに多少苦慮したが、クリスマス特集も掲載出来て、またお話を聞く会の記事や事務局訪問も 4 名掲載された事はとても良かった。

II. 「きずな」170号について

170号巻頭言：宣教者をお願いしているが未定

III. 援助申請

シスター末吉順子（イエスのカリタス修道女会）からの援助申請。ペルーのリマ市郊外、貧しい地域にあるイエスのカリタス修道女会運営、マリア・タキ保育園、園庭の屋根に破損が見られ、改築の必要に迫られている。子どもたちの安全を考え早急に修理を要する。改築費用は改築手続き、材料費、人件費の合計。総額\$17,800.00（¥2,736,857）10/12現在。

日本円にすると280万円くらいと高額ではあるが、9月に援助申請が無く今回もこの申請のみであったため、約2回分の予算を使用し、また緊急性があり子供たちの安全のためとあるので、満場一致にて援助が決定した。……………\$17,800.00の援助決定。

IV. その他

- ・「きずな」169号 業者発送 2,722通 9日発送。郵便事情で少し到着が遅れている。
- ・事務局にて国内大口発送 94通、事務局海外発送 52通 12月6日発送済み。
- ・事務局よりクリスマスカードを43通送った。
- ・ボランティア3人が手書きの一筆を添えてクリスマスカードを宣教者全員に発送、きずなと一緒にまたカトリック雑誌も共に封入。
- ・宣教者名簿発送：今はまだゲラが上がってこないの、チェック完了は年明けになる。
- ・郵便局、「振り替え口座」払い込み票コピーの発行が終了して、ゆうちょダイレクトにログイン後ダウンロードして事務局で印刷。年間発行手数料が数万円節約になった。
- ・2024年9月13日新PC到着 W11対応で稼働中。
- ・「心のともしび」誌のバックナンバーをご寄付頂いた。
- ・事務所冬休み開始 12月24日～1月6日、新年1月7日～事務局開始。
- ・島上麻子運営委員は家庭の事情で今回をもって運営委員を退任。

次回の運営委員会は2025年3月8日 13時～



宣教者からのお便り



ブルキナファソ

◆ワガドゥー◆

再びブルキナファソへ

マリアの宣教者フランシスコ修道会 黒田 小夜子

2025年1月20日、18年ぶりにブルキナファソ Ouagadougou に無事到着しました。

1983年10月、ブルキナファソ（B-F）に派遣されたその頃はB-F管区FMM修道会は何の事業もしていなく、若い初期修練者、志願者

の養成の時期でした。看護師（日本免許）である私は熱帯病の資格をベルギーで習得したのち Bobo Dioulasso (Burkina-Faso、第二都市) の Sanou Suro 国立病院に正式に看護師として着任し外科にそして小児科に勤めることが出来ました。この病院の小児科勤務での経験で重症の栄養失調児が国立病院に入院し、西洋医療下におかれ、貧困家庭は無論、高価な医療費に全財産をはたいてのあげく死んで行く子供の実態でのジレンマにはまり込んだ、熱帯地での栄養失調児治療研修（コートジボワール）を終了し、小児科部長の許可のもとに小児科の廊下のコーナーに栄養失調児コーナーを設け、成果を上げたので、その後、病院内に栄養失調児センターを設立し、奇跡的ともいえる多くの重症栄養失調児の回復を経験しました。1995年、この病院を55歳で定年退職をした私は、このような経験を踏まえて、栄養失調児を抱える貧困家庭と共同して、CREN St François d'Assise (Centre de Recuperation Educational et Nutritional St François d'Assise) の創立をはじめました。

この CREN St François d'Assise は世界(日本を含む)教会、日本大使館、の援助で完成した。完成した暁には、継続できるために“CREN 基金”を作りその利子での運営を考えましたが、この種のプロジェクトはどこからも受け入れてもらえませんでした。2006年4月仕方なく私は後任シスターに手渡して、2006年4月ブルキナファソを去りました。

パキスタン、Faisalabad にある60年の歴史を持つ FMM が運営するラファエル産科病院が10年来赤字体制に陥っており立ち上がるため

のプロジェクトの仕事に呼ばれたのです。聖ラファエル病院では“貧しい人々に連帯した自然分娩推進”のミッションが評価され、国認定ラファエル病院となってからは不思議と黒字体制に変わり現在まで運営しています。

2017年、日本に最終的に帰国し、高齢者シスターの介護をしていた私は、7年後、再びブルキナファソ管区に再派遣され、こうして82歳で18年ぶり再びブルキナファソの地を踏みました。

世界で最も貧しい国の一つ、ブルキナファソの人々の生活状況は20年前と一向変わってはいないように感じる：公衆不衛生、食糧不足、危険な交通状況、熱帯サハラの水不足等々何も改善されているとは思えません。しかし素朴、純粹、礼儀正しく働き者の burkinabe のうちに見る潜在能力のパワーには圧倒される。実に「信頼に値する国民」というのが私の実感です。純粹な暖かいアフリカ人の心は変わっていない。

ミサが私の食物とは今実感します：教会の前面には復活された黒人のイエスキリストが、漁に出た弟子たちに現れ海辺に立ってペトロに神の国のカギを渡すシーンの巨大な壁画が、教会前面いっぱいにかかれており、“信頼”の迫力に圧倒されます。



今やっと時差ぼけから覚めた私は、ゆっくりと現場を見て回ります。首都 ouagadougou では高校、診療所（写真）を見ました。これから CREN St Farançois d 'Assise を始めた Bobo-Dioulasso に行こうと思っています。聞くところによると当地のシスターたちによって、CREN はよりよく発展しているようです。

厳しい気候、交通、生活などの状況での旅です。私自らの条件を良く見据えて神様のご保護のもとで働きます。これからもよろしく願いいたします。

ボリビア ◆サンタ・クルス◆

虹色の喜びと希望の架け橋を

イエスのカリタス修道女会 立石 順子

ボリビア、サンタ・クルスのオガール・ファティマ乳幼児院より、主のご降誕と新年の喜びとお祝いのご挨拶を申し上げます。2024 年も皆様のおかげで月平均 40 名の子どもたちの成長を見守りながら、賑やかに、楽しく、睦まじく過ごすことが出来ました。私たちの心からの感謝が、虹色の喜びと希望の架け橋を通して、皆様の心に届くことを願っています。2025 年カトリック教会では、神の恵みから希望を受け、神へと向かう歩みを強める聖年を祝います。教皇フランシスコは、私たちが、主キリストの愛に生かされ希望の光を灯して傷ついた人々と地球の再生に力を尽くすように招かれます。

今、オガール・ファティマ乳幼児院は難しい局面を迎え、神様に導きと助けを願っています。家族から引き離され見捨てられた幼い命が生き

る力と希望を失うことなく、安心して過ごせる居場所を提供し続けることが出来ますように、どうぞ今後ともご支援ご協力、お祈りくださいますようお願い申し上げます。新しい年が平和で幸せな年でありますように。

カンボジア ◆シエムリアップ◆

人間形成の基礎作りを

ショファイユの幼きイエズス修道会 谷村 恵子

本会はカンボジアに 2 つの共同体がありましたが、2023 年 3 月、会員減少の為、プノンペン教区カンボート共同体は閉鎖となり、バットンバン教区シエムリアップ共同体に合流しました。19 年間の数々のご援助とご協力に心より感謝申し上げます。お陰様で奉仕を全うすることが出来ました。

シエムリアップ共同体の第 1 期は、2002 年 6 月からバットンバン教区に受け入れられ、シエムリアップ教会主任司祭イエズス会士ヘリ師の活動である、ポール・ポト政権下で壊滅されたカトリック教会の復興活動の一環である「貧困によって教育の機会を奪われている子供の為の教育プログラム」の実施を託されました。最も貧しいプノンクラム村に「こどもセンター」を開設し、子供たちの為の「栄養補給」・「衛生教育と健康管理」・「家庭訪問」を実施しました。数年後、ヘリ師より子供たちを学校へ入学させるために「識字教育」を中心としたプレスクールへと変更し発展させたいとの要請がなされました。

第 2 期として、ヘリ師の要請に答えて、2010

年5月にプノンクラム村からアランニュー村へ移り、就学前の4歳・5歳児を対象にプレスクールを開校し、2025年の現在に至っています。在園児数は4歳児35名、5歳児25名、総数60名です。

教育目的は、人間形成の基礎作りとして園児が一人で出来るようになる為の人的・物的環境を提供すること。自国の文化継承と他文化との出会い。そして、就学前の準備です。

カンボジア王国は過去のポル・ポト政権時代に教育を全面否定した歴史がありますので、負の遺産の価値観からの解放が必要でした。近年いろいろな面で、保護者が教育を良きものと位置づけ、その価値を認め、教育に協力的になってきています。これからは保護者と共に子供の明るい未来を築いていくお手伝いが出来たらと願っています。

現在、新しい試みとして、シエムリアップ教会を拠点に司祭と超修道会のシスター達と共に青少年育成の仕事に参加しています。きずなの皆様、これからもカンボジアの教会の為、カンボジアの青少年の未来のために、ご協力をよろしくお願い申し上げます。

(Sr 橋本進子・Sr 池尻ひとみ・Sr 谷村恵子)

日本

◆静岡県裾野◆

日本のミッションを任命され

聖心会 足立 万利子

久しぶりに日本のミッションを任命され、しまい込んであった冬物衣類等を倉庫から取り出し静岡へ。こんなにも日本は寒いのかと震える。

しかし、雪を少し被ったふじさんは本当に美しい、7年ぶり富士の裾野である。雨季と乾季しかなかったインドネシア。年中28℃前後、半袖素足の生活に慣れ親しんでいた私には日本は正直言って寒かった。四季のある生活のなかで育った私には、春、イースター、桜、新年度、葉桜、5月メーデー、ご昇天、聖霊降臨、イエスのみこころ、梅雨が終わるとプール、夏休み、主のご変容、お盆(お墓参り)、半袖から長袖へ衣替え、もみじや楓が紅葉、秋の運動会、文化祭、落ち葉掃き、そろそろ待降節、クリスマスの準備、ドライフルーツを漬け込み、クリスマスケーキ、ポルポロンを焼く、季節の行事が、日常茶飯事に織り込まれていたが、年中いつも同じ気温、晴れるか雨が降るか、イスラム教のモスクからのけたたましいスピーカーからのお祈りが、1日5回毎日毎日聞こえてくるだけ、総人口の87%がイスラム教徒であるから仕方がない。しかし、ラマダンになったら、その期間には毎日一晩中スピーカーは呼び続ける。最初私はテープでも回しているのかしらと思っていた。それぞれのモスクで教師が祈っているのである。お祈りの時間の前後、道にはお祈り用の絨毯(サッジャーダ)を肩にかけ、白いスータンの様な物を着た人々が往き来する。その光景は目を見張った。だんだんそういう光景にも慣れてくると、インドネシア人はカトリック教徒、プロテスタント、ヒンズー教徒、仏教徒、儒教徒、イスラム教徒のどれかに属しており、国民全員が身分証明書に何教かが書かれている事を知りました。日本の様な信仰の自由はありません。国民全員が六つの宗教の何れかに属しています。皆がそれぞれの唯一の神様に向いて



ご近所の方たちと夕方のごミサ

バレンダ教区の工業専門学校での昼食パーティー。(生徒はイスラム教徒の方が多い)教室の椅子、机を移動して、床に座り、バナナの皮を大皿のように、皆で作ったお料理をならべ手でたべます。



二十歳をむかえたファティマとマルティナがフィリピンの修練院へ8月17日(独立記念日)出発しました。

生活をおくっています。



2004年頃より、2025年にマスタープラン(世界の10大経済国)に入ること为目标に世界第4位の人口規模に対応しようと政府は工業化を目指しています。石油等の地下資源も豊富であり、未来は明るいのですが、私としては環境破壊を心配しています。例えば、ジャカルタは地下水の汲み上げにより年に約3センチの地盤沈下が起こっています。空気汚染もひどいです。富士山を眺めながら、緑豊かな美しい自然がいつ迄も保たれることを祈り続けています。

イタリア

◆ローマ◆

子供たちがサンゴ礁を見て感激

聖マリア修道女会 荒井祥恵

お元気ですか。お忙しくお過ごしのことと思

います。2~3日前に「きずな」と「カトリック生活」を受け取りました。「きずな」では、私の話を、良くまとめて下さりありがとうございました。読んでいて楽しくなりました。

去年の12月には、レストナック社会教育センターの子供たちと学習を兼ねたクリスマスキャンプをしたそうです。クリスマスキャンプでは、子供たちにサンゴ礁を見せたそうです。アタウロ島沿岸のサンゴ礁は世界的な保護区になっていて、世界中から研究者が来て研究を進めています。しかし、そこで生まれ育った子供たちは、家庭環境や教育レベルの貧しさからでしょうか、そういうサンゴ礁を一度も見たことがなかったのです。子供たちはとても喜んだそうです。健康に気を付けてお過ごしください。

ブラジル

◆セルタオジンホ◆

神の愛が世界を変える

イエスのカリタス修道女会 黒崎幸代

現在私が奉仕させていただいているラール・サント・アントニオは、二つの福祉施設を併設しています。1つはユースセンターで6歳から15歳までの子どもたち(150名)が午前または午後の時間をこのセンターで過ごします。ブラジルの学校の大部分は半日制です。保護者が仕事をしている場合など、学校がない時間は子どもたちにとって安全に過ごす場所が必要です。私たちは地域のニーズに沿って、子どもたちが健全に成長できるように施設を運営しております。主な活動としては、コンピューターの基礎情報処理、スポーツ、ダンス、手芸品作り

などがあります。センターとしては宗教的な活動はできませんが、月に数回ほど聖書のお話しを行ない子どもたちの心の糧となるようにしています。



もう1つの事業は養護施設です。定員は20名で、現在17名の子どもたちが入所しています。入所理由は主にネグレクト、親の精神疾患、虐待などです。保護者の養育力不足のために入所することが多く、子どもの保護と同時に家庭環境の改善と家庭支援が大きな課題です。就寝前に子どもたちと職員でお祈りをする習慣があり、子どもたちは安心して1日を終え休みに就きます。

今日、世界や教会は1つの地球家族として協力するように促されていると思います。持続可能な開発のための2030アジェンダが目標としている、貧困の撲滅、飢餓撲滅、すべての人への健康・質の高い教育などの17のゴール、教皇フランシスコの「ラウダート・シ」の精神の7つの目標は、私たちが日々目指すべき社会に近づくことができるよう鼓舞しています。私はブラジルで宣教女として奉仕していますが、貧しい人々、虐待されている子どもたちと生活を共にしながら、目に余る貧富の差に葛藤の日々です。この環境が改善されるには長い時間がかかり、何をどのように支援していったらいいのか、課題は大きく、解決の道りは程遠いように思われます。この課題を通して神様は私たちに何を望まれているのでしょうか。

まずは、私の目の前にいる助けを求めている人を助け、愛情を求めている子どもたちを抱きしめ、神様の愛が世界を変えていくと信じて自分にできることをお捧げしようと思います。私たちにできることは小さなことですが、ひとつひとつの行いの中に神様の御業が行われますようにと、日々祈りながら。海外宣教者を支援する会の皆さまが関心を寄せ、惜しみない支援を

してくださることに心から感謝いたします。

インド

◆ナガランド◆

インド通信 23 その5

メディカル・ミッション・シスター 延江 由美子

世界中で連日ウクライナとガザで起きている戦争のニュースが報道されている一方で、ほとんどメディアに取り上げられない出来事の一つがマニプール州に住むメイティ族とクキ族の間で起きている惨たらしい民族紛争です。この歴史的背景と要因となる事柄は極めて複雑なので、私が正しく状況を把握することは難しいと思いますが、マニプール出身の神父さんやクキ族のクラスメートを持つMMSのシスターに、積極的に様子を聞いています。ようやく軍隊が介入したが焼き討ちにあうクキの村は絶えることがなく、多くの人たちはまだまだキャンプでの避難生活を強いられている、子供たちはなんとか勉強を続けられるようにツテを頼って近隣の州に逃れている、などなど。断片的ですが少しでもいいから知りたいです。コヒマにある私たちの修道院のご近所さんは数ヶ月前、片方のサンダルだけを履いて着の身着のまま逃げてきたシスターたちを一時的に囲まったそう。修道服を着ているとキリスト者とわかるので危険です。

MMSはマニプールで活動していませんが、マニプール出身のノビス（シスターになる準備期間にいる修練者）、クリスティーナがいます。彼女の家族が住んでいるファイブン・クレン村はコヒマから4時間ほどドライブですから、比較的行きやすいところですが、それでゴッ

ドフリー神父さんをお願いして連れて行ってもらいました。（「いのち綾なす」の地図を参照してください）彼女にとっては異国のような土地マディア・プレディシュ州で頑張っているクリスティーナを励ましたいし、危うい事態にいる家族がどうしているかとても気になったからです。ゴッドフリー神父さんは北東部のあちこちに治療した患者さんや支援している子供たちの家族が数えきれないほどいるので、いつも自分の用事も合わせて何かと都合をつけてくれます。ありがたい限りです。

ゴッドフリー神父さんにはマニプール州出身のプーマイ・ナガ、スティーブン神父さんとコヒマ在住のアンガミ・ナガである女性2人の「ツーリング仲間」がいて、彼らと同行すると思わず興奮してしまう異文化体験の連続です。今回は状況がとても不安定な土地に行くので地元人であるスティーブン神父さんは大変心づよい存在でした。ナガランド州と隣接する地域に入ると、スティーブン神父さんが目の前に広がる山々を指しながら「あっちがナガランドでチャカサン・ナガ族が、その手前はマニプールでマオ・ナガ族が、その隣がマラム・ナガ族、マニプールのこっち側にはプーマイ・ナガ族が住んでるだよ」と丁寧に説明してくれます。30以上のエスニック・グループからなるナガ民族が居住している領域はかなり広くて北海道と九州を合わせたほどの面積だと聞いたことがあります。この辺りは山岳地帯。空気は冷んやりしていて、ディマプールの暑さが嘘のようでした。

私が初めてこの地に来たのは2018年です。当時はひたすらのどかな凸凹の山道を走りました。今はというと道が急ピッチで整備されつつ

あり、大型の重機がガンガン機動しています。ミャンマーとつながる、国道ならぬ「インターナショナル道」で来年には完成するのだそう。ベンガル人、ネパール人とおぼしき労働者が働いてました。

目的地のファイブン・クレンとリアイはどちらもプーマイ・ナガの人たちの村なので、紛争による直接被害はありませんが、インターネットは未だ遮断されていて陸の孤島と化しています。もとよりかなりの僻地で娯楽など全くなく、お世話になったお家の27歳になる女性は「ほんとうに退屈」と嘆いていました。だからといって両親をおいて他に移るわけにもいきません。



段々畑の向こうに建設中の道が見えます。



リアイ村



ナガ家屋

WhatsAppの代わりに、ネットがなくてもシェアできる Share It という無料アプリで動画や写真をやり取りしているそうです。

マニプリ・ナガの人たちはナガランド州で使われるナガミーズ（いわゆるナガ語）を知りません。ですからアングミ・ナガの神父さんと2人の女性は村の人たちと英語で話すしかないの



もうすぐ宴会が始まります。



プーマイ・ナガ4世代



ある日突然鳥の群れのように飛行機がとんできて日本兵が村に来た、と話すプーマイ・ナガの女性。ということは、80歳をゆうに超えているでしょうに、彼女の髪は黒々として厚い。もちろん染めていません。

ですが、たいていの大人（40代以上？）は英語を知らずコミュニケーションが取れない。日本人の私と同じ立場です。それでも部族は違えど味の好みや気質といったものは似ているでしょう、夜になるとライスビールと豚肉と牛肉、それからこの季節ならではの蟹で作られた酒の肴をつまみながら何かを言い合っては大笑い。延々と盛り上がってました。そして今回初めて、自家製のライス・ワインを味わいました。まさに日本酒です。限りなく下戸に近い私は舐める程度のお相伴で勘弁してもらいましたが、みなさんグイグイと飲み干していきます。そして酔い潰れることがない。

2泊3日の間には何度もナガ式の肉肉しい食

事でもてなされました。驚いたのはたとえ朝ごはんであってもまずはお肉のおつまみと共にライス・ビールとが出されたことです。それもマグカップに何杯も。お客としての特別なおもてなしだったでしょうが、それを喜んで受ける神父さんたちのバイタリティに圧倒され、そしてよくまあこれだけお肉を毎食続けてモリモリ食べられるもんだ、だから彼らはこんなに頑強なんだと改めて思った次第です。

またまた余談ですが、コヒマでおもてなしを受けたお家ではお母上からの秘伝だという葡萄酒をいただきました。ポートワインのように甘く、ゴッドフリー神父さんにとっては新種のお酒だったようです。



*韓国 テジョン

御聖体の宣教クララ修道会 小川和子

いつもお祈りで支えていて下さることに心から感謝申し上げます。今年もXmasカードを送らせていただきます。聖体顕示台の中にイコン式の聖母子を描いてみました。不作ですが、ご笑味下さいませ。直訳ですが、カードの内容です。時々「家庭の友」「きずな」を送って下さって嬉しく読んでおります。みなさまの尊いご奉仕の上に神様の豊かな祝福とお恵みをお祈り申し上げます。

*ブラジル モジ・ダス・クルーゼス

コンベンツアル聖フランシスコ修道会 大水恵一

先日修道会の用事でブラジル、モジ・ダス・クルーゼスにある修道院に伺い、レオナルド松

尾繁詞神父様とお会いして参りました。そこで神父様が創設から関わっておられるコレジオ・フランシスカン・セイボ学院の50周年の式典に参列させていただきました。レオナルド松尾神父様はとても精力的にご活躍なさっておられました。この度、神父様よりお土産をお預かりいたしましたので、お送りさせていただきます。松尾神父様を思い出して、お祈りいただければ幸いです。どうぞ良い主のご降誕と新年をお迎えください。

*オーストラリア メルボルン

聖パウロ女子修道会 松本 恵

明けましておめでとうございます。本年もよろしく申し上げます。今日、クリスマスと新年のご挨拶状と「きずな」No.169(2024.12.1号)、

そして「カトリック生活」バックナンバー2部受け取りました。ありがとうございました。私は1年半前にシドニーからメルボルンの郊外(ヴィクトリア州)に移っています。よろしくお願いたします。

*ペルー リマ

イエスのカリタス修道女会 末吉順子

申請させていただいた幼稚園屋外園庭屋根の改築のために予算を出していただきましたが、それは援助先を探すためです。今のところ「海外宣教者を支援する会」にだけお願いさせていただきました。工事は土台のやり直しからしなければなりませんので、1か月弱かかる

ようです。今、市へ建築許可の申請をはじめてるところです。これだけでも1か月以上かかるでしょうといわれています。シスター川端にもこの件については説明し、許可をいただいています。幼稚園がある場所は、Villa Maria del Triunfo 市、San Gabriel という地区です。建築が始まれば、初めからの作業の様子を写真に撮り、お伝えさせていただこうと思っています。正直少し高額とは思いますが、修道会関係でいつも仕事をしている信頼できる建築士です。これは詐欺にあわないために、私たちにとって大切なことです。ご検討よろしくお願いたします。



◇海外で宣教なさる皆さまの為にいつもお祈りしています。(東京都 酒井 三貴子)

◇残り少ない人生ですけれどただただ世界が平和でありますようにと祈る毎日です。不自由な国々で働いていらっしゃる方々がお身体を大切にとお祈りいたします。

(鹿児島県 伊地知 咲子)

◇猛暑の熊本でした。世界中大変です。神様のみ手に委ねてお祈りのうちに!!

(熊本県 S.益田 典子)

◇感謝してお祈りしています。ご健康を祈ります。

(宮城県 新宮 幸子)

◇厳しい環境で宣教される皆様の安全とご健康を心からお祈りいたします。キリストの御言葉が多くの人に伝えられますように。

(北海道 松岡 健一・博子)

◇昨年退職したので、たいしたことはできません

んが、皆様お元気でがんばって下さい。

(岐阜県 清水 治美)

◇いつも“きずな”をお送り頂きありがとうございます。お働きに感謝致します。困難な世界情勢の中、危険をかえりみず、宣教に生きる皆様に頭が下がります。心よりお祈りしています。

(兵庫県 森口 燿子)

◇いつもありがとうございます。少しですが、寄付します。

(神奈川県 花田 道子)

◇気候変動の続く日々ですが、みな様どうぞ気をつけて日々のお仕事を頑張ってください。神様のめぐみ豊かでありますように私共も祈ります。

(東京都 ベタニア修道女会)

◇いつも「きずな」をありがとうございます。クリスマス献金 感謝を込めて

(宮城県 渡辺 征子)

◇お祈りでもって応援しています。

(東京都 S.末吉 美津子)

◇色々不安を持つ家族のためにお祈り宜しくお願ひします。(東京都 佐藤 操子)

◇ベリス・メルセス会の眞上シゲ様、海外でもご活躍、お身体をお大切になさって下さいませ。

(東京都 中川 和子)

◇いつも「きずな」をお送り下さり、ありがとうございます。シスター方の笑顔に乗せて「主の良き訪れ」が一人でも多くの人の許に届きますように。どうぞお体にお気をつけて主と共に使命に赴かれて行かれますように。お祈り申し上げます。(栃木県 那須トラピスト修道院)

◇天に栄光、地に平和と祈りつつ。

(東京都 鈴木 順子)

◇いつもお祈りしています感謝でいっぱいです。ありがとうございます。

(宮崎県 重黒木 まゆみ)

◇「きずな」を毎回お送り頂きありがとうございます。宣教者の皆様と事務局の皆様の上に神様の豊かなお恵みがありますように祈っております。(東京都 服部 栄子)

◇皆様のご活動に心より感謝しています。この寄附金は息子へのクリスマスプレゼントとして贈らせて頂きます。

(東京都 木嶋佑介・えつ子)

◇山野内司教様のメッセージに同感です。教皇のラウダートシをもう一度読んで教会の中で分

よろしくお願ひいたします

サレジアンシスターズ 熊本 幸子

私は、社会福祉法人の児童養護施設(星美ホーム)で、15年間児童の中で指導員として、27年間施設長として奉職して参りました。今年

かち合いたいです。宣教者の方々のために祈っています。(北海道 柳谷 豊)

◇応援しています。

(兵庫県 聖ドミニコ宣教修道女会ロザリオ院)

◇いつも「きずな」をありがとうございます。皆様のご活躍に神様のお恵みを与えられます様にお祈りいたします。

(北海道 北26条教会)

◇祈りと感謝を込めて

(東京都 スミス 睦子)

◇姉テレジア八幡とも子の帰天の際、皆様から頂いたご厚情へのお礼として寄付させて頂きます。(東京都 八幡 恒雄)

◇応援しています。(神奈川県 木下 庸子)

◇残りはわずかですが、会への寄付として納めさせて頂き下さい。(愛知県 赤澤 進)

◇感謝 (千葉県 平松 裕子)

◇2024年クリスマス献金からの寄付です。

(神奈川県 磯子教会)

◇車の免許証を返納して不便な生活をしていきます。宜しく。(福岡県 西山 康則)

◇八幡さんに大変お世話になりました。何かでお役に立ちたいとずっと願っていましたが、長い時をかけてやっと思いがかなえられます。レース編みお役に立てるようならお知らせください。どうぞ皆様インフルエンザにお気をつけてください。(宮城県 S.福田 幸子)

度で施設長の職を退き、4月からは施設に隣接する修道院院長としての任務を遂行することになりました。「日本カトリック海外宣教者を支援する会」とは異なる活動分野で働いて参りましたので、自己紹介といっても、支援する会の皆様には関心の少ない話題になってしまいます

が、この道一筋に生きてきた私の活動分野のことを少々紹介させていただきます。

日本では、長い年月を経て、児童養護の対象者、ケアや制度のあり方など大きく変化してきました。特に1994年に「児童の権利条約」に日本も批准して、ケアのあり方が大きく変わりました。それによって、幸いにも私どもの養護施設では、創立者ヨハネボスコの掲げる予防教育法を実施することができるようになりました。それは創立者がまだ幼い9歳のときの夢の中で、聖母マリアから受けた「暴力はいけない、優しさや愛情で子供たちの友達になるのですよ」という教えをもとにした教育法です。

私が修道請願を立てて、最初の現場が星美ホームでした。私は高年齢児のケアに携わり、本当に大変でした。児童たちの行動は反社会的な行動が多く、私たちシスターは24時間勤務、休みなしのハードな仕事でした。しかし、私も若かったですし、やりがいも感じていましたので、今思えば充実した日々でした。その後、イタリアでの勉強や九州の施設での施設長を経て、再び星美ホームに施設長として12年前に赴任いたしました。その頃の星美ホームは荒れ

ていましたので、まず職員に予防教育法に沿って、児童のケアをするように働きかけていきました。それによって児童たちが落ち着いてきて、今の「星美ホーム」があります。

現在、100名の児童たちと100名のケアワーカーがいて、本家には半数、あと半数は近くの8軒のグループホームで生活しています。手前味噌になりますが、予防教育法の理念に沿って、職員が一致していますので、離職数もかなり低く、採用も充足しています。今、放映されているドキュメンタリー映画「大きな家」は、星美ホームでの撮影で高い評価を得ています。

今年度での施設長退任を控え、一抹の寂しさも覚えますが、自分の生涯を施設にかけたわけではなく、イエス様に賭けて修道者になったと言う思いが、次に進む助けになり、感謝いたしております。これまでと同様、これからも神のご意志だけを求め、それに行きながら過ごしたいと思っております。

今、海外宣教者を支援する会の任務をいただき、どれだけお役に立つかわかりませんが、新たな心で皆様から学ばせていただきながら励んで参ります。どうぞよろしく願いいたします。

連載

「海外宣教」

希望

「希望の源である神が、
信仰によって得られるあらゆる喜びと平和とであなたがたを満たし、
聖霊の力によって希望に満ちあふれさせてくださるように」(ローマ 15・13)

マリオ 山野内 倫 昭 さいたま教区司教

新年のニュースの一つとして、教皇フランシスコの新著『希望、自叙伝』(原題はイタリア語で「スペラ=希望する」、2025年1月、374ページ)がミラノのモンダドーリ出版社から出版されました。わたしはこの本を、教皇の大勅書『希望は欺かない』(ローマ 5・5)とともに、この聖年のための最初の霊的読書としています。この大勅書は、2025年聖年に向けた中心的

なメッセージであり、2024年5月9日に発表されました。

希望という観点から、自身の人生を語る教皇フランシスコの姿は、わたし（69歳ですが）のこれまでの人生もまた、「希望」という名の内的な力によって動かされていることを理解する助けとなっています。確かに、わたしたち一人ひとりの人生、とりわけわたしたちが祈りと献金によって支援し、また支援し続けている宣教師たちの人生は、生きた「希望」の力によって支えられています。

現在、わたしたちの多くは、紙の本も購入し続けていますが、より安価なデジタル形式の本も読んでいます。それには紙の本の良さはありませんが、1度、あるいは2度読めばすぐにデジタル形式での読書に慣れてきて、本棚のスペースも取りません。このように、今教皇フランシスコの本を読んでいて、教皇は、自分の人生における主人公たちが生きた、社会の歴史状況について、独創的で興味深い方法で詳細に語っています。とくに、彼の家庭環境との関わりについて、イタリアとアルゼンチンの歴史の変遷に浸りながら、世界の動きも忘れることなく語っています。

この本の図書紹介は次のように語っています。

『希望』は、史上初めて出版される、教皇による自叙伝である。

過去6年間をかけて執筆された自伝の完全版で、物語は20世紀初頭から始まり、家族のイタリアのルーツと祖父母たちの波乱に満ちた南米への移住、そして幼少期、青年期の情熱と不安、召命への呼びかけ、そして教皇在位全期間と現在に至るまでの円熟期へと続いていく。フランシスコは、内省的な語り口で、自身の情熱も隠すことなく、率直に自身の教皇在位期間におけるもっとも切迫した問題に向き合い、現代のもっとも物議を醸す重要なテーマについて、勇気と素直さ、そして未来への展望をもって展開している。つまり、戦争と平和（ウクライナと中東の紛争にも触れながら）、移住者、環境危機、社会政策、女性の地位、セクシャリティ、技術発展、そして教会と宗教の未来について、である」。

この自叙伝の冒頭ページから、少し息吹を感じていただきたいと思います。わたしにとって教皇フランシスコは、間違いなく優れた文学的芸術家です（彼は文学の教員であり、アルゼンチンの大作家ホルヘ・ルイス・ボルヘスとも面識がありました）。それは、彼が自身の歴史の過程に具現化された希望の同伴者として、読者を導き入れる手法を見れば分かります（この文章を書いている時点で、私は第8章「人生は出会いの芸術」まで読んでいます。全部で25章ありますが、すぐに読み終えるでしょう）。

本書の序文は次のようです。

「すべては花開くために生まれます。

わたしの人生に関する本書は希望の道程の物語であり、それはわたしの家族や、わたしの仲間、そして神の民すべてから切り離して考えることはできません。そして、毎ページに、一步一步に、わたしとともに歩んできた人々、わたしの前を歩いた人々、そしてわたしたちのあとに続く人々の本でもあるのです。

自叙伝は私的な文学ではなく、むしろわたしたちの旅のカバンのようなものです。そして記憶とは、覚えていることだけでなく、わたしたちを取り巻くすべてのものでもあります。それ

は過去のことだけでなく、未来のことについても語るのです。あるメキシコの詩人がいうように、記憶とは、終わることのない現在なのです。昨日のことのようであり、同時に明日のことでもあるのです。

イタリア語ではよく使われる表現は、『aspetta e spera (待ち、望む)』ですが、スペイン語では『esperar』という一つの動詞に両方の意味が込められています。しかし、希望は何よりも変化の原動力であり、動きの徳です。つまりそれは、記憶とユートピアを結びつける緊張であり、わたしたちを待ち受ける夢を適切に築き上げるものです。そして、もし夢が弱まるなら、記憶の残り火に希望を抱いて立ち返り、新しい形で再び夢を見なければなりません。わたしたちキリスト者は、希望は人を欺くことも失望させることもないと知るべきです。つまり、すべては永遠の春に花開くために生まれるのです。最後に、ただこう言うでしょう。あなたのいない記憶など何一つない、と」。

新しい支援者

個人 5名

八幡 恒雄 (東京都) 赤澤 進 (愛知県) 加藤 憲一 (東京都)

井上 洋子 (神奈川県) 石田 昭 (北海道)

事務局より

- ◎今年も、すでに2月になりました。輪島もまだまだ目途の立たない生活をされている方が多いとお聞きます。被害の大きい輪島教会も早く復興されますように祈っております。
- ◎今年の復活祭は少し遅くなりますが、祈りでつながることを忘れずに参りたいと思います。
- ◎皆様、今年も良い年でありますように。
- ◎使わなかったはがきや切手などございましたら、通信費として使用させていただきますので事務所までお送りくださいますようお願い申し上げます。

発行：日本カトリック海外宣教者を支援する会

〒106-0032 東京都港区六本木4-2-39

Tel. 03-5770-8753 Fax. 03-5770-8754

e-mail kaigai-senkyo@cronos.ocn.ne.jp URL <http://www.kaigai-senkyo.jp>

- ・銀行振替口座 みずほ銀行高田馬場支店 普通 2084112
日本カトリック海外宣教者を支援する会
- ・郵便振替口座 00140-5-67881 海外宣教者を支援する会